

町小だより

令和8年
7月23日
No. 710
御免町小学校

夏休みの思い出づくり

校長 土田 利康

いよいよ38日間の夏休みが始まります。何人かの子どもたちに聞くと、「家族で温泉に行く」「祖父母の家に行く」「いろいろな祭りに行く」など、それぞれに夏休みの楽しみを胸に膨らませていました。普段の学校生活や土日とは異なる時間の流れを経験できることは、夏休みならではの大きな魅力です。

私自身の子どもの頃を振り返ると、我が家は父方の実家でもあったため、夏休みに家族だけで遠出をすることはほとんどありませんでした。その代わり、お盆になると親戚が一斉に集まり、家中が笑い声に包まれる毎日でした。父は九人きょうだいでしたので、いとこだけでも15人ほど、叔父や叔母を合わせると30人近くが集まり、とてもにぎやかでした。年齢の近いところ同士で裏の空き地で野球をしたり、近くの海で泳いだり、夜になると広間いっぱい蚊帳（かや）をつり、その中で遅くまで語り合ったりしました。また、お盆の頃によく見えるペルセウス座流星群を、屋根に寝そべって眺めたこともありました。毎日がイベントの連続で楽しく、特別な旅行に出掛けたわけではありませんが、今でも鮮やかによみがえる夏の思い出となっています。

振り返って考えてみると、その思い出を彩っているのは、「どこへ行ったか」よりも、「いつもとは違う時間を過ごした」という非日常の体験だったように思います。大勢で食卓を囲んだこと、普段はなかなか会えない人たちと過ごしたこと、時間を気にせず夢中になって遊んだこと。そのような少し特別な時間が、子どもの心には深く刻まれ、大切な思い出となっていくのではないのでしょうか。

もちろん、それぞれの家庭には様々な事情があります。保護者の皆さんの仕事の都合や家族の健康状態などにより、子どもの希望どおりの予定を立てることが難しい場合もあるでしょう。しかし、夏休みの思い出は、旅行や遠出だけでつくられるものではありません。一緒に花火を楽しむこと、夕涼みをしながら散歩をすること、少し夜更かしをして星空を眺めること、親子でゆっくり語り合うこと。そんな何気ない時間にも、子どもたちにとってはかけがえのない「非日常」があります。

これから始まる長い夏休み。家庭でしか味わえない時間を大切にしていいただければと思います。特別な出来事の大きさではなく、家族と心を通わせながら過ごした時間が、子どもたちの心を豊かに育みます。2学期の始業式に、子どもたちが「こんな夏休みだったよ」と笑顔で語ってくれるような、心に残る思い出が一つでも多く生まれることを願っています。

保護者の皆さんにおかれましては、暑さの厳しい時期となりますので、健康管理や事故防止にも十分御留意いただき、家族そろって実り多く、思い出あふれる夏休みをお過ごしください。

